

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度技術情報第22号（カンキツのカイガラムシ類）について（送付）

下記のとおりカンキツのカイガラムシ類について取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和6年度技術情報第22号

露地栽培のカンキツにおいて、7月以降、カイガラムシ類の発生がみられ、11月も多くなっています。発生園では、越冬時期の冬季用マシン油乳剤（95%）による防除を徹底してください。

1 対象病害虫 カンキツのカイガラムシ類（アカマルカイガラムシ、コナカイガラムシ）

2 対象作物 カンキツ

3 発生状況

11月の調査では、発生ほ場率は10%（平年3.4%）と過去10年間の中で2番目に高い（図1、2）。また、寄生果率は0.9%（平年0.3%）と過去10年間の中で最も高かった。

4 防除上注意すべき事項

- 越冬した成虫・幼虫が翌年の発生源になるため、発生園では越冬時期に冬季用マシン油乳剤（95%）をハダニ類等の防除も兼ねて2月までには必ず散布する。
- 樹冠の頂部や裾部、枝葉の混み合った部分に発生が多いので、農薬を散布する際は、薬液が十分かかるようにする。
- 防除にあたっては、農薬の使用回数や使用時期を遵守し、飛散には十分注意する。



適用農薬一覧

5 参考データ

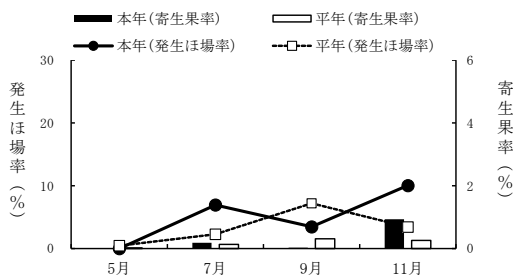


図1 カイガラムシ類の発生ほ場率と寄生果率の推移（令和6年度、県本土・熊本）

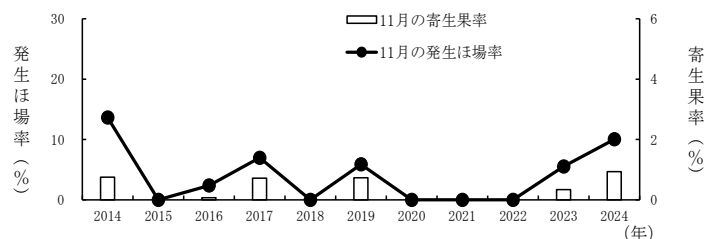


図2 年次別の11月のカイガラムシ類発生ほ場率と寄生果率の推移（県本土・熊本）